

組合員数104,239人  
支部数 945  
読者数 65,342人  
(5日現在)  
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777  
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org  
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。



第401号 2023年5月15日(月)  
(通巻第600号)  
全日本年金者組合中央本部  
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル  
発行人 杉澤 隆宣 月刊1部100円(組合費を含む)  
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

# 128通の手紙 最高裁長官に

## 憲法にもとづき公正な判断を

### 大詰めの年金裁判

全国の原告団が最高裁要請行動  
最高裁前で杉澤委員長のあいさつを受けて意思統一し、都府県代表と女性代表の2班の要請団が署名1万1000筆、22日の最高裁包囲行動、



### 5・22 最高裁包囲へ

「年金引き下げは憲法違反」。2015年から年金者組合が全国で取り組んできた年金裁判は最高裁で26原告団、高裁で9原告団がたたかう「大詰め」となっています。参加しました。

6月15日の全国での年金支給日宣伝を成功させようという誓いがありました。  
署名と手紙 本部に続々

なわ、4月20日現在、大法廷への回付を求める個人署名は42,206筆、842団体、戸倉長官への手紙は1180通が中央本部に集まっています。

#### ◆長官への手紙◆

女性の低年金の実態を知って下さい。切実な声を聞き取って下さい。憲法で定められた財産権、生存権、をしっかりと裁判で保障して下さい。正しい憲法判断を求めます。

(新潟県)

今、夫婦二人の年金で何とか生活しています。が、これからどちらかが欠けたら、一人の年金では生活していきません。生活に必要なものが値上がりしているの、これから先がとても不安です。

(滋賀県)

私の息子は50歳の身体障害者1級で月額約8万円の障害年金を受給しています。息子は脳梗塞の手当が遅れたために、口から水も食事も摂れず、ゴムチューブを胃に入れて、注射器でセットして経管式で液体の食事です。こういう障害年金です。こういう障害年金です。こういふ障害年金です。一律に下げることが人道に反することです。

(大阪府)

私は81歳になります。年金だけでは生活できず働き続けています。遺族年金を受給してはいますが、私自身が掛けている年金は受給できていません。私が掛けていた年金はなくなったのでしょうか、せめて生活保護並の年金にして欲しいものです。

(福岡県)

東京高裁の判決はどうか。私も公正な判決とは言えません。年金生活者が自身の生活の実態をリアルに語り、真実を切実に訴えていたにもかかわらず、一顧だにしないのは許せません。最高裁こそ国に付度することなく、大法廷によって集団的な審理を尽くした判決になるようお願いいたします。

(東京都)



5・6月

東京・練馬支部は2月14日、練馬駅前ので銀行前で、支給日宣伝行動を行いました。そこに一人の男性が話しかけてきました。「物価高なのに年金を減らすなんて、「どうして皆は黙っているのか」以前、政府は百年安心の年金と言っているのか」

私は、年金者組合は年

たのに違つではないか」などなど。

た。男性は署名してくれ

た上、奥さん、同居のおば

さん、弟さん4人の加入

書を書いてくれました。

支部としてはじめての

出来事に驚くとともに、

私たちの訴えが届いてい

るといふうれしい記念日

になりました。支給日行

動を全支部一斉に取り組

むことで、加入者も1

人、2人と増えていくの

ではないでしょうか。

私たち練馬支部は29

9人、今年の仲間ふやしの

目標は年間30人です。

亡くなったやめていく

方もおり大変ですが、皆

で協力して呼びかけを強

めて、仲間ふやし頑張っ

ていきたいと思ひます。

(千野律子)

### 署名の男性 一家で加入

東京・練馬支部

### 支給日宣伝でビックリ体験

金引き上げの署名や年金裁判を8年もたたかっていることを説明しまし



「若者にお金を回してくれや！おじいちゃんおばあちゃんに、年金払う意味ないです、廃止。若者にお金を回せば、経済もよくなります。」

▽年金者組合中央本部があるせいか、こんなバカな主張をして、窃盗、業務妨害など逮捕歴6回の「迷惑系ユーチューバー」が東京都豊島区議に立候補。結果はもちろん落選、供託金没収。

▽アホなヤツだが、「高齢者は昔いい思いをしたが、俺たちはそのツケを払わされるばかり」という、就職氷河期以降の世代の「怨念」をかきたてるのに一役買っている。そして出産育児一時金の財源を口実に、後期高齢者医療制度の保険料上限を引き上げるなどの改悪推進を後押しする。

▽「日本を経済大国にしたのは私たちの世代」の自負は胸にしまつて口にせず、現役世代と一緒に労働運動、さまざまな社会活動を進めてこそ、世代間対立を煽る政府のたくらみをつぶせる。